

渡邊順生

チェンバロ音楽シリーズ 全5回
今井館聖書講堂

2026

1

バッハ：パルティータ（全曲）その2

3月8日〔日〕15:00開演

2

フォルテピアノ伴奏による
モーツァルト／シューベルトの歌曲

5月17日〔日〕15:00開演

共演：渡邊有希子（ソプラノ）

3

バッハ：7つのトッカータ
～バッハのクラヴィーア世界の始まり～

7月5日〔日〕15:00開演

4

バッハ：フーガの技法（全曲）
～バッハのクラヴィーア世界の終焉～

10月11日〔日〕15:00開演

共演：鴨川華子（第2チェンバロ）

5

バッハの息子達による
ヴィオラ・ダ・ガンバ ソナタ集

12月22日〔火〕19:00開演

12月23日〔水〕13:00開演

共演：酒井 淳（ヴィオラ・ダ・ガンバ）

各回共 全席自由 4500円

3回セット券〔限定30セット〕 10000円

※任意の回を3公演／取扱いオフィスアルシュのみ

ご予約・お問合せ：オフィスアルシュ tel.03-3565-6771

Yoshio Watanabe Cembalo

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ奏者、指揮者として活躍。論文執筆や楽譜校訂も手がける。アムステルダム音楽院にてグスタフ・レオンハルトに師事、ソリスト・ディプロマおよびブリ・デクセランスを取得。フランス・ブリュッヘン、アンナー・ビルスマ、ジョン・エルウィス、マックス・ファン・エグモントなど、欧米の名手・名歌手たちと多数共演。またCD録音も多数。2006年度、16年度レコード・アカデミー賞に輝く。10年度サントリー音楽賞受賞。19年指揮したモンテヴェルディのオペラ『ポッペアの戴冠』で、三菱UFJ信託音楽賞奨励賞受賞。第66回（2024年度）毎日芸術賞受賞。

後援：日本チェンバロ協会



渡邊順生チェンバロ音楽シリーズ 2026

1 バッハ：パルティータ (全曲) その2 3月8日 [日] 15:00開演

1731年に出版されたバッハの「6つのパルティータ」は、バッハの最高傑作の1つで、バロック時代における組曲の伝統を終焉に導いたとされる謂わば窮極の組曲集。渡邊はこの曲集に学生時代から半世紀以上にわたって取り組んでおり、今回は2回にわたる全曲演奏の第2回目となる。横田誠三氏製作による素晴らしい初期フレンチ・モデル (クロード・ラブレッシュ [c1680] のレプリカ) を使用。

2 フォルテピアノ伴奏によるモーツァルト／シューベルトの歌曲

5月17日 [日] 15:00開演

共演：渡邊有希子 (ソプラノ)

使用楽器：フェルディナント・ホフマン (ウィーン、1795年頃)

今井館聖書講堂のこじんまりとした響きの良い空間はドイツ・リートには最適のもの。演奏曲目は、モーツァルトの「すみれ」、「夕べの想い」、「春への憧れ」、「子守歌」その他の歌曲に加えて、フォルテピアノ独奏による二長調と短調2つのロンド。シューベルトは「野ばら」、「アヴェ・マリア」、「ガニュメート」、「春に」、「憧れ」、「ロザムンデからのロマンス」、「夕映え」、「憧れ」、「ミューズの子」その他。

3 バッハ：7つのトッカータ～バッハのクラヴィエア世界の始まり～

7月5日 [日] 15:00開演

バッハは25歳になる1710年頃までに《7つのトッカータ》を次々に作曲した。これらの作品群によって、バッハは彼の最初の「曲集」とすることを意図したのではないと思われる。結局、そのプランが実現されることはなかったが、単独の作品の単なる集合体にとどまらない、より包括的・総合的な大きな世界の創造を目指す、という彼の創作姿勢は既にこの作品群において明らかである。渡邊順生によるこの作品群のCDは、毎日芸術賞受賞記念ディスクとして2025年6月に発売され、「レコード芸術 on Line」の2025年度の年間ベストに選出された。

4 バッハ：フーガの技法 (全曲)～バッハのクラヴィエア世界の終焉～

10月11日 [日] 15:00開演

共演：鴨川華子 (第2チェンバロ) [鏡像フーガのみ]

演奏は、バッハの死後に出版された初版譜によって行うが、演奏順は、1742年に成立したとされる自筆による初期稿に準拠した渡邊独自の曲順 (詳細は、当日のプログラム・ノートを参照されたい)。2022年1月に発売されたCDは極めて好評で、「レコード芸術」誌の特選盤となり、同年のレコード・アカデミー賞にもノミネートされた。

5 バッハの息子達によるヴィオラ・ダ・ガンバ ソナタ集

12月22日 [火] 19:00開演 / 12月23日 [水] 13:00開演

共演：酒井 淳 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

演奏曲目は、C. P. E. バッハのヴィオラ・ダ・ガンバと通奏低音の為の2つのソナタ ハ長調及び二長調、ヴィオラ・ダ・ガンバとオブリガート・チェンバロの為のソナタ短調。J. C. バッハによるヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロまたはピアノフォルテの為の4つのソナタ 変ロ長調、ト長調、ヘ長調 (2曲)。

5/17

渡邊有希子

Yukiko Watanabe
ソプラノ



岐阜県出身。国立音楽大学声楽科卒業。武岡賞受賞。東京藝術大学大学院修士課程独唱科卒業。宮内庁桃華楽堂での御前演奏会、読売新人演奏会、日本経営クラブによるJMCコンサート、女性と仕事の未来館クリスマスコンサート、JTアフタヌーンコンサート、芸大モーニングコンサート、うたシリーズ等各種の演奏会に出演。第19回友愛ドイツ歌曲コンクール入選。岐阜国際音楽祭コンクール声楽一般の部3位。これまでに曾我榮子、佐竹由美、朝倉蒼生、佐々木典子の各氏に師事。

10/11

鴨川華子

Hanako Kamogawa
チェンバロ



大阪府出身。幼少より母の手ほどきでピアノを始める。東京音楽大学ピアノ科を経て同大学研究科チェンバロ専攻修了。ピアノを故下村和子、武田真理、チェンバロと室内楽を渡邊順生、宇田川貞夫の各氏に師事。都留音楽祭、サンフランシスコ古楽協会講習会に参加し研鑽を積む。1995年第9回古楽コンクール (山梨)・チェンバロ部門において最高位受賞、同時に第7回栃木「蔵の街」音楽祭賞を得る。1998年ブルージュ国際古楽コンクール・チェンバロ部門においてディプロマ受賞。以後、ソリストおよび通奏低音奏者として、各地で演奏活動を展開している。2005年よりコンサートシリーズ「フルートとチェンバロの愉しみ」毎年開催。「ジョーバン・バロック・アンサンブル」メンバー。

12/22、23

酒井 淳

Atsushi Sakai
ヴィオラ・ダ・ガンバ



名古屋生まれのガンバ奏者・チェロ奏者・指揮者。2017年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。1986年に渡米。中島順、堤剛、H. シャビロに師事した後に渡欧、パリ国立高等音楽院でP. ミュレルに師事し首席で卒業。また、同音楽院在学中、並行してバロック・チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバをクリストフ・コワンにも師事する。古楽アンサンブルの通奏低音奏者として、数々の演奏会とCD録音を手掛ける。室内楽に力を注ぎ、シット・ファスト (ガンバ・コンサート) やカンピニ弦楽四重奏団の創立者として活躍。またソロでは、フランス・ヴィオール音楽のスペシャリストとして高く評価され、フォルクレ、マレ、クーブラン (2018年レコード・アカデミー賞 [音楽史部門] 受賞) 等の作品のCDで好評を得る。近年はフランスのディジョンやリールのオペラ座、オペラ・コミック座での指揮で成功を収めている。

各回共 全席自由 4500円

3回セット券 [限定30セット] 一般10000円 ※任意の回を3公演/取扱いオフィスアルシュのみ

ご予約・お問合せ:

オフィスアルシュ tel.03-3565-6771

チケット取扱い:

チケットぴあ <https://t.pia.jp> Pコード318541

イープラス <https://eplus.jp>

東京古典楽器センター tel.03-3952-5515



pia



eplus

今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

JR山手線 駒込駅から徒歩11分

東京メトロ南北線 駒込駅から徒歩8分

都営地下鉄三田線 千石駅から徒歩5分

